

オルタナティブ系 家族チーム

齋藤 真緒

(産業社会学部准教授)

○齋藤 家族プロジェクトの報告をさせていただきます。

代表を務めています産業社会学部の齋藤といいます。よろしく申し上げます。

私がリーダーをしている家族プロジェクトは視覚とはかなり離れている、もっと人間関係とか、人間の内面、感情も含めて問題にどう接近をしていくのかという、またかなり話題が変わってしまうだろうと思いますけれども、きょうはそのお話を幾つかポイントを絞って最近の取り組みを報告させていただきますと思っています。

現在社会の中で、家族はとても難しい人間関係であり、一方ではとても理想化されて、すべての人が家族に対して何らかのリアルな感情を持っており、実際には家族の人間関係というのはうまく機能しない部分があるということが明らかになってきています。そういう意味で親密な関係性の中で生じるさまざまな関係のゆがみみたいなものに、どう接近・関与していくのか、それは実際個別の対人援助レベルから制度政策レベルまで視野に入れながら進めていく必要があります。

家族は、そもそもどういう境界で、だれを家族のメンバーにするのかということ自体も、人によっては違いますし、法的に承認された人間関係だけを対象とするのでは、実際の深刻化しつつある人間関係にアプローチできません。したがって本プロジェクトの研究対象は法的に承認された家族関係に限定していません。きょうお話しさせていただく具体的なトピックスは、若者の恋愛なのですが、親密な人間関係、法的に承認された家族だけではなく、恋人とか、あるいはとても親しくしている友人とか、法的に承認さ

れていない形態の夫婦（事実婚）とか、そんな多様な形態の親密な関係性が
どういう人間関係の特性を持っているのかということ、を、まず十分把握をす
る必要があります。

実際愛情で結ばれているはずの人間関係の中で起こってくる、例えばさま
ざまな支配やコントロールを含む、暴力の構造的な特性はどういうものがある
のか。規定ファクターとして、ジェンダーや世代があります。あるいは家族に社会的に期待されているような再生産、妊娠、出産、子育て、あるいは
介護といった分野にかかわる健康やセクシャリティーを共通するキーワード
としています。

今日の報告は、多様なニーズに対応したサポートプログラムの一環として、
デートDV予防プログラムを取り上げます。最近、デートDVという言葉が
徐々に普及をしています。ドメスティック・バイオレンスという言葉は、相
当社会的には普及してきて周知されています。法的に承認された夫婦以外の、
いわゆる恋人関係の中で生じる暴力のことを指す言葉で、特に若い世代に多
いと最近指摘されています。デートDV予防プログラムを平成18年度から内
閣府の研究事業として着手して以降継続しています。DVに対する支援とい
うのはかなり大きなテーマになってきています。デートDVについても、90
年代後半ぐらいから日本でも取り組まれ始めていますが、デートDV
はどんな暴力の構造なのか、どういう問題が起こっているのか、なぜだめな
のか、そういうことを例えば講演形式で、若い人に言葉を知ってもらって話
をするという形のアプローチもありますが、それではなかなか十分な効果が
上がらず、若い人自身にどうやったら自分の問題として考えてもらえるか
ということにこだわりました。新しいデートDVに対するプログラムとして、
当事者中心のプログラムで、これは学生自身がつけた名前ですけれども、恋
愛ismプロジェクトという名前で、今、活動しております。

基本はワークショップ形式で、若者自身が参加をしてもらって、自分自身
の恋愛観や人間関係の特性を振り返ってもらくと同時に、ほかの人ってどう
いうふうなおつき合いをしているのだろうということを実際にワークショップ
を通じて知ってもらっています。この取り組み自体は別にオーソドックス

だと思うのですけれども、実は恋愛について、まじめに考えるなんていうこと自体は、余り多分社会的にも取り組まれてなかったことで、何となくいつの間にか友達同士で伝達されるとか、雑誌の情報で知ることがほとんどであるため、このことをあえて意識化するような形具体化したいと考えます。それは「恋愛カフェ」と名づけて、ここ2年取り組んできています。

学生がつくってくれたかわいいポスターをつくって、学内に張るだけで結構学生の間では話題になります。

どんなテーマについて話し合うのかということですが、マスメディア、とくにテレビドラマや雑誌も含めて、かなり社会の中では恋愛しましょうというプレッシャーが、若い人には相当かかっています。例えば、恋人がいないとほかの友達に対して引け目を感じるのと、とりあえずつき合わなきゃみたいな、相当ピアプレッシャーが強い領域だと思います。本当に恋愛って楽しいことだけなのということを考えてもらうワークとか、あるいは恋愛関係において、例えば自分が相手のことをすごく好きだった場合、どんなにデートDVはよくないとか、あるいは対等な人間関係でなければいけないということと言ったとしても、「嫌だ」ということを、相手に対して言うのは結構難しいのですね。例えば若者自身が、自分は何が好きで、何が嫌いなのかという自分の価値基準をはっきり持っていないと、「嫌だ」ということも実は余り上手に伝えることはできません。特定のシチュエーションのときに自分だったらどうするかということと、じゃあそれをどう相手に伝えるのかということと、また逆の立場に立って、自分がノーと言われたらどう感じるのか、どういう伝え方であれば許容できるかを考えるワークもあります。

失恋とか虚偽と恋愛とか嫉妬とかマンネリとか、いろんなテーマをとりあげて1回につき1テーマで恋愛について学生自身が話をするという形をとっています。

例えば恋愛のポジティブ、ネガティブについてですが、まず最初に、自分自身で考えるという段階をとりますので、一人附せんを持ってもらって、附せんに恋愛のいいところ、悪いところというの、それぞれ8個ずつ書き出してもらいます。8個というのは結構難しく、なかなかすらすら書けない場

合もありますが、それを順番に出し合って、どんな意見が出てきたのかということを見ます。

例えば2人の時間にかかわるような事柄とか、あるいは相手とつき合うことによって、自分が何か相手に強く影響を受けて価値観が変わってしまう、例えば相手色に染まってしまうとか、あるいは常に話さなきゃいけないという、関係が義務的になってしまうというような意見も出ています。その一方で、優しくなれるとか、あるいは未来思考になれるとか、心の支えになるとか、ポジティブなものも出てきますが、こうやって全体を見てみると、傷つくことも結構いっぱいあるとか、不安になるとか、実は恋愛について要素を出してみると結構いろんな関係が見えてきます。ここは閉鎖的、排他的というふうに書いていますが、恋愛することで、自分にとってはかけがえのない人間関係ができる一方で、ほかの人間関係がおろそかになっていく側面などに気づきが発生します。

去年は私立高校に行って、高校1年生に対して、恋愛カフェをやりました。大人が恋愛のいいところとか、恋愛はこういう問題があるのだよということを一方向的に語るんじゃなくて、若者が若者自身の言葉で恋愛について語ってもらうということをしました。大人である私たちに想像できないようなかわいい意見がいっぱいあって、「目がハート」、「パラダイス」「大人になれる」、「嫌なことを頑張ろうと思える」「携帯を見てにやける」「妄想が楽しい」「でもちょっと忙しくなるかな」とか、「友達と遊べない」といった高校生ならではの声が聞こえます。私が参加したのはスポーツ推薦の特待クラスだったので全員男の子でした。彼らは部活をしながら恋人とつき合うという、かなりハードな日々を送っていて、練習がしんどいと恋愛が面倒くさくなるし、部活動に影響するし、「勉強できひん」という意見も出てきました。「別れたら絶望する」「くどくどくどい」「てんぱる」、「へこむ」、「むだに悩む」「上のそらになる」。なぜ若者の間でDVが大きな問題になってきているのかという一つの大きな要因として言われているのは、携帯電話の普及があります。DVには、どうしても身体的な暴力のイメージが強いので、殴る、けるというイメージが強くて、自分は身体的暴力はされていないので、これはデート

DVの関係ではないと思いがちです。例えば何をやるにしても必ずメールで相手に自分の行動を報告しなければいけない、例えばトイレに行きますとか、お風呂に入りますとか、あるいは本当に家にいるかどうかということを証明するために、今、家の中の写真を撮って相手に送らなければいけないというような形で、目に見えない相手からのコントロールがすごく大きくて、最初は楽しくていいんですけども、気がついたらものすごくしんどい人間関係に陥っているというケースがあります。携帯による支配とかコントロールというとても問題が、とくに携帯を多く使う若者の人の間で大きな問題になってきています。高校生の中でも、メールに関するコメントがとても多くありました。電波の悪いところに行くと、もしかしたら何かセンターにメール来ているんじゃないかということで常に問い合わせしてしまうとか、「メールを待つ時間がうざい」、「耐えられない」「途中で相手から返事が来なくなったら死にたくなる」とか、メールは若者の恋愛のかなり大きなコミュニケーションのツールになるということを、高校生自身も自覚することができます。

デートDVが発生しやすい状況が、ある程度特定化されつつあります。気持ちにかかる問題、お金にかかわる問題とか、人間関係を制約されてしまうような問題など関係の非対称性に由来する状況が可視化されつつあります。

ワークショップ形式に参加できない若者も多くいます。実際自分の話を知らない人と一緒にするということになじまない人のために、ラジオでこういう情報を流していけたらなということで、つい最近「恋愛ラジオ」を始めました。今、産業社会学部のホームページにアクセスをすると、この恋愛についての15分番組ができてきています。テーマで若者自身が発信していけるような形で、今後も継続したいと考えています。

以上です。

○**司会** どうもありがとうございました。質問ございますか。

○**質問者** とりあえずやられていることは、DVの問題だと、恋愛の仕方の講座があるのですか。ちょっと世代が全然違うので違和感があります。

○**斎藤** 基本的に、マニュアル型の、例えばこうしたらうまくいくという回答はありません。デートDVをめぐって、対等な関係ということがしばしば

言われますが、じゃあ対等の関係って何？ということ、まだまだ日本の社会の中では十分語られてこなかったのではないかと考えています。若者自身の言葉で、こういうことについてはこうしたらいいのではないかとか、こういうケースについて私はこうしたとか、逆にこうしたら失敗したとか、そういう若者自身の声を集めて、それをある程度交通整理をして情報発信していくという方法で、対等な関係の内実を具体的に積み上げていきたいと思っています。デートDVについて直接伝えるというよりか、むしろ遠回りですが、そういう恋愛にちょっとまじめに考えるようなテーマをつくっていかうじゃないというのが、このプロジェクトの大きなポイントかと思っています。